

2023. 3. 27

(件名) ギニアにおけるラッサ熱の発生

【ポイント】

- 3月24日、ギニア国家衛生安全保障庁（ANSS）は、ンゼレコレ県でラッサ熱患者の発生および疑い例の死亡が確認されたことを発表しました。
- ラッサ熱に感染しないよう、下記を参考に、感染者又は感染の疑いがある人との接触は避け、ネズミからの感染リスクを減らすようにして、ラッサ熱の感染予防を心掛けてください。

【内容】

1 概要

(1) 3月24日、ギニア国家衛生安全保障庁（ANSS）は、3月21日にンゼレコレ県でラッサ熱を発症した患者1名が死亡したことと、関係者27人の経過観察を行うことを発表しました。

(2) ラッサ熱は、ウイルス感染症であり、マストミスと呼ばれるネズミの糞や尿などに接触すること、ラストウイルスを含む粉塵を吸い込むこと、感染者の血液など体液に触れることなどで感染します。

(3) 症状については、潜伏期間（7～18日間）を経て、徐々に発熱し、全身倦怠感に続き、関節痛や筋肉痛、咳、嘔吐、下痢の症状が現れ、重症化すると死亡率は20%ほどと言われています。

2 予防対策

(1) 感染が疑われる方の体液、血液、排泄物などに触れないようにしてください。

(2) ネズミからの感染リスクを減らすために、ネズミを避ける、食べ物はネズミに触れられない入れ物で保管する、ネズミの糞や尿に汚染されそうなところに触れないという対策を行ってください。

(3) ラッサ熱に対してのワクチンはないため、抗ウイルス薬による対症療法が基本になります。発症早期に治療するほど高い治療効果が期待できるため、感染の疑いがある場合には、医療機関を受診し、大使館にも御連絡ください。

3 このメールは、在留届にて届けられたメールアドレス及び「たびレジ」に登録されたメールアドレスに自動的に配信されております。「たびレジ」簡易登録をされた方でメールの配信を停止したい方は、以下のURLから停止手続きをお願いいたします。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/delete>